

メンバー

外来医長 種田 紳二

病棟看護師 奥原 亜矢

病棟看護師 鈴木 志織

(招待スタッフ) 遠藤 寿美恵 (小野百合 内科クリニック 看護師)

行き先

Westmead 病院ほか見学研修 (Sidney, Australia)

日時

4/30-5/5

出発の成田空港



張り切っていこう!

研修1日目 NovoNordisk Australia ・JDRF研修



立派なオフィスで・・・



かれのHbA1cは6.2%



めいぐるみ、腕、足、お尻、お尻にフェルトが張り付けられ、インスリンの注射部位を示している。

シドニー郊外にあるノボ社のオフィスを訪れました。統括部長の坂本さんが、オーストラリアの医療に関する概要を説明してくれました。オーストラリアでは約20万人ほどインスリン治療がいます。最近アナログインスリンが増え、ヒトインスリンの使用量を逆転したそうです。また器具では日本ではフレックスペンが一番多いですが、ここではノボペンIIIが一番多いそうです。処方する医師もあまり器具にはこだわらないからだそうです。

研修2日目 Westmead病院見学



玄関には1/500?の模型



私たちのために集まってくださいました 右は7ヶ国語を話す通訳さん



インスリン注射の指導風景。日本のほうが丁寧?

シドニー郊外にある1000床の大病院。今回は外来の診療や指導場面、病棟の患者さんのインタビューまでさせていただきました。Nurse Specialist(CNS), Nurse Consultant(CNC)とよばれる看護師さんたちが Nurse Educatorとして診療に指導に大活躍をしていたので印象的でした。

研修3日目 DiabetesAustralia オーストラリア糖尿病協会の見学



日差しの強さは1級品

オーストラリアでは医療機関での患者教育が十分ではないため患者が自分で糖尿病協会に登録し、糖尿病協会より直接情報を得ています。サマーキャンプの主催、Nurse Educatorの認定・育成、インスリン治療患者へSMBGのサブライやインスリンの針などを無料で配布する手配などもここで行っています。

オーストラリアはヨーロッパ型の公的医療中心の福祉型医療の国ですが、実際には民間保険に基づく自費診療との複雑な混合医療の形式を取っています。大病院では地元医からの紹介に限られ3-6か月待ちの状態です。Westmeadのような大病院は州立で、医療費は無料ということもあり、時間にゆとりある診療が行われていました。看護師がDiabetes Educatorとして大きな権限を持ち、活躍している反面、専門医の労働量は少ないようでした。また、アメリカと違って、栄養士の権限が小さいようでした。カロリー制限を強調する食事療法がされていないため、肥満者が多い状態はなかなか改善されないようです。

研修終了して成田空港。



ご苦労様でした

旅の風景



なんといってもロフスター。超特大 これも特大ケンタッキー。



念願のコアラ。さわったぞー！！



オペラハウスを望むディナークルーズ

雄大な自然と、おいしい食べ物ともども今回の研修結果を今後の日常臨床に生かして生きたいと思います。(記・種田)